

## 令和3年度 上下水道事業運営審議会書面会議結果【下水道関連】

委員	意見等	回答
A委員	<p>1 今後、収益の伸びは期待できず、厳しい財政運営が予想されます。一方で管渠の整備や浄化センターの長寿命化なども進める必要があります。職員皆様で費用対効果、優先度、使用料の値上げを慎重に検討した上で、下水道事業の運営をお願いしたいと思います。</p>	<p>今後、人口減少や節水機器の普及により下水道使用料の減少が見込まれ、加えて供用開始後33年を経過し、設備機器の更新や元金償還金の返済等により非常に厳しい経営状況が予測されますが、中長期の計画を適正に捉え検証し、実行していくことで持続可能な下水道事業を継続してまいります。</p>
	<p>資料表紙には実績について交付期間の終了時には評価を行い、公表するとなっています。①最終年度（令和元年度）から、約1年半経過して意見聴取されるのでしょうか。</p>	<p>国土交通省監修の下水道事業の手引きには『下水道事業費補助による下水道事業の事後評価は、事業完了後5年以内に実施する』と記載されておりますが、ご指摘のとおり事業完了から約1年半経過していることから、今後はより速やかな事後評価の実施に努めてまいります。</p>
	<p>②武蔵高萩駅、浄化センター増設、浄化センター長寿命化の3つで事業費が319百万円かかっていますが、この中にどれほど国からの交付金が入っているのでしょうか。別紙の経営状況では大変財政が厳しいということだと思います。特定財源も入っていることをアピールしたらと思います。</p>	<p>武蔵高萩駅北地区雨水管整備事業には29,000千円、日高市浄化センター増設事業には75,400千円の国庫補助金が充当されております。なお、日高市浄化センター長寿命化事業（日高市浄化センターストックマネジメント事業）につきましては、補助対象の要件を満たすか不透明な部分があり、埼玉県との確認及び調整に時間を要したため、国庫補助金の交付は受けておりません。3事業の合計事業費319,000千円のうち、104,400千円が国庫補助金として充当されております。</p>
	<p>③この3つの整備率などの事業効果はいかがだったのでしょうか。</p>	<p>武蔵高萩駅北地区雨水管整備事業につきましては、平成27年度から令和元年度までに雨水管1,082.50mを整備し、令和元年度の工事をもって武蔵高萩駅北地区の整備を完了することが出来ました。この事業で整備した区画整理事業地内の雨水管総延長は1,561.25mです。 日高市浄化センター増設事業につきましては、武蔵台及び横手台地区の公共下水道接続に伴う汚水流入量の増加が見込まれるため、水処理施設のエアレーションタンクと汚泥の重力濃縮槽を増設し、処理能力を15,670m<sup>3</sup>/日から18,800m<sup>3</sup>/日へ増強しました。 日高市浄化センター長寿命化事業につきましては、平成28年度から5年間（令和2年度まで）に限り、下水道長寿命化支援制度に基づく国庫補助金が交付される制度がありましたが、当市では平成29年度に長寿命化計画を策定する予定であったため、計画期間（平成30年度～令和4年度）の途中で国庫補助金の交付が終了してしまうこととなります。そのため、長寿命化計画ではなく新たに国庫補助金の交付対象となった下水道ストックマネジメント計画を策定することとしました。また、本事業に基づく汚泥脱水設備更新工事の実施設計業務も実施し、老朽化した設備の効率的かつ計画的な更新準備を進めることができました。</p>
	<p>④また、同様に計画についても始まってから、約1年半経過して意見聴取されるのでしょうか。</p>	<p>令和2年度から令和6年度の社会資本総合整備計画につきましては、計画期間満了後速やかに審議会委員の皆様へご意見をお伺いし、事後評価を実施いたします。</p>
	<p>⑤女影地区、浄化センター、旭ヶ丘地区の3つの事業費を1,322百万円見込んでいますが、この中にどれほど国からの交付金を見込まれていますか。</p>	<p>女影地区下水道管渠整備事業には13,000千円、日高市浄化センターストックマネジメント事業には462,550千円、旭ヶ丘地区下水道管渠整備事業には110,500千円を見込んでおり、3事業の合計事業費1,322,000千円のうち586,050千円の国庫補助金を見込んでおります。</p>

	<p>⑥この3つで整備率などの事業効果を見込まれていますか。</p>	<p>女影地区下水道管渠整備事業につきましては、事業認可区域の未整備地区を整備するものですが、高麗処理分区の公共下水道への接続、旭ヶ丘松の台土地区画整理事業に伴う幹線整備など、市街化区域の下水道整備完了後に整備を進めていく予定です。</p> <p>日高市浄化センターストックマネジメント事業につきましては、供用開始から30年が経過し、老朽化が進んでいる浄化センターの各設備に対し、平成30年度に策定した日高市下水道ストックマネジメント計画に基づき計画的かつ効率的な改築修繕を実施することで、安定的な汚水処理を目指すものです。旭ヶ丘地区下水道管渠整備事業につきましては、旭ヶ丘松の台土地区画整理事業の進捗に合わせて工事を実施いたします。</p> <p>このため、土地区画整理事業の都市計画決定後に幹線整備を行うこととなりますが、工事につきましては国庫補助金の交付を受け実施する予定です。現段階では令和6年度からの工事を予定しております。</p>
	<p>2 資料P3にあるように女影地区の整備は事業認可区域に編入され、約20年経過してから事業化されたようです。この間、市街化調整区域であるという理由のほか、何か理由があったのではと思います。市街化区域内は都市計画税が賦課され、下水道・道路・公園などの都市計画施設の整備に充当されます。市街化区域内で公共下水道整備ができていない区域もあると思います。市街化調整区域に優先して、整備を進めてほしいと思います。</p>	<p>下水道事業については市街化区域を優先に進めております。その後、事業認可区域の未整備地区の整備を進めるよう検討しております。</p>
<p>B委員</p>	<p>下水道事業も水道事業と同様に厳しい状態が継続している。その一方で明るい話題もある。日高市制施行30周年を記念し、市内在住の著名な墨絵画家の又野龍也氏と漫画家の二ノ宮知子氏に描いた、市の花「ハギ」「曼珠沙華」や特産の「栗」と高麗郷をノスタルジックに表現したマンホールふたを作製・設置したことだ。これらの取り組みは非常にユニークで、今後、もう一歩進めてまちづくりにも活用してほしい。先日、水戸市に取材に行った帰り、観光協会に立ち寄った。日高市同様にマンホールカードを作成し、市民に対し積極的にアピールしていた。日高市でもマンホールカードを作成しており、人気も上々だと聞く。このような地道であるが、ユニークな取り組みを通して、市民に下水道の重要性や、その状況を同時のアピールしてもらいたい。</p>	<p>市制施行30周年記念マンホール蓋につきましては、市内を始め多くの方々に興味を持っていただき、Twitter（ツイッター）やFacebook（フェイスブック）等のSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）でも話題になるなど、一定の宣伝効果が得られていると感じております。</p> <p>また、マンホールカードにつきましても、当市の公共下水道事業を広くアピールするために「カワセミ」、「巾着田」の2種類を作製し、配布しておりますが、配布希望者は関東近県はもとより西日本方面等といった遠方からも来訪されております。引き続き、当市の公共下水道に関心を持っていただくことと併せ、当市のまちづくりにも繋がるような情報発信に努めてまいります。</p>
	<p>下水道整備について、下水処理場整備の長寿化に力を入れてほしいと要望する。下水道は、1年365日、24時間稼働し続ける施設であり、建設から何十年も経っており、施設の老朽化はいかんともしがたい。そして、下水道の収入も人口減などにより、減少することは長期計画の中で、容易に予測される。だから、現在ある施設をどのように長持ちさせるかが大きな課題となる。だから、施設を長く稼働させることが最も重要だと感じるからだ。</p>	<p>老朽化が進んでいる市浄化センターの各設備の計画的かつ効率的な改築修繕を実施するため、平成30年度に日高市下水道ストックマネジメント計画を策定しました。この計画は、下水道施設の中で最重要施設である浄化センターについて、設備の重要度や老朽化に基づくリスク評価等を行い、市浄化センターの改築シナリオの設定等を行いました。今後につきましても、下水道事業の経営状況を考慮しつつ、本ストックマネジメント計画に基づいた改築修繕を実施し、安定的な汚水処理を行ってまいります。</p>

	<p>世界的な新型コロナウイルスのまん延により、東南アジア諸国ではロックダウンの影響により、電子部品が調達できなくなったり、また、これらを輸送するコンテナが不足する事態になっている。電子部品が供給できず給湯器が大幅に供給不能になっている。このため、山梨県の別荘地では給湯器が盗まれる事例も発生している。上下水道の工事で資材への影響を心配しているが、市内の業者はどのような状況なのか危惧している。</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大に伴う市発注の下水道工事に關する資材の影響につきましては、現時点では大きな影響は無いものと思われませんが、原材料や資材価格の高騰による製品価格の見直しについて資材メーカーより通知があることから、今後の状況を注視しております。なお、市発注工事の工期設定につきましては、資材供給に関する納期を考慮した上で、早期完了できるようにしてまいります。</p>
<p>C委員</p>	<p>収益の減少、施設等の修繕や更新費用の増大に対処する為、これまで様々な取り組みをされてきたと思います。今後も継続して、安心で安全な生活が行えるよう経費縮減を柱とした事業経営をされていくとは思いますが、料金の値上げも視野に入れた場合、予測としていつ頃その可能性が出てくるのでしょうか。</p>	<p>下水道事業は供用開始後33年を経過し、耐用年数を超えた設備機器が多く存在するため、計画的に改築更新を行う必要があると同時に元利償還金の返済により、今後現金が目減りしていく状況にあります。今後も維持管理や人件費の削減などの企業努力を更に図っていくことを優先するとともに、市民の皆さんに経営状況について情報提供し、持続可能な下水道事業を行うための合意形成を図っていきたく考えています。従いまして、料金改定の時期につきましては明言できませんが、まずは市民の皆さんに現状を理解していただくことが重要であると考えております。</p>
	<p>令和2年度からの整備計画が最終目標値に近づくようにと願うばかりです。世の中の状況が変化した中、当初の目標通り来年度は中間目標値に到達できそうでしょうか。</p>	<p>ご指摘のとおり、世界的な半導体不足やコロナ禍による部品・部材不足等により、社会経済活動に大きな影響が及んでいるところですが、本計画の事業の一部にも影響が及び、日高市浄化センターストックマネジメント事業による沈砂池ポンプ棟送風機更新工事では、必要となる資機材の調達に多くの時間を要し、完成期日を延期せざるを得ない状況が発生しています。今後、各事業における中間目標値の達成が困難になる可能性もございますが、引き続き最終目標値の達成に向けた各事業の推進に努めて参ります。</p>
<p>D委員</p>	<p>上水道事業と同じく、施設の老朽化により、修繕費、更新等に相応の費用が必要と考えます。説明のとおり、将来の施設更新の費用が貯められない厳しい運営状況であることを市民に周知するとともに、料金等を含めた下水道事業の運営方針も見直す時期に来ているのではないかと考えます。</p>	<p>供用開始後33年を経過し、耐用年数を超えた設備機器が多く存在しているため、計画的かつ費用の平準化を念頭に更新を行う必要があります。また、本来更新費用を賄うための現金を蓄えなければならぬところ、元利償還金が経営を圧迫し、現金は目減りしている状況です。こうしたことから、財政計画を適切に見積もり、PDCAサイクルによる検証を毎年度実施し、持続可能な下水道事業を行ってまいります。</p>